



発行 座光寺地域自治会
編集 公民館委員会
広 報 部
印刷 (株)南信州新聞社

飯田下伊那地域の活力ある地域づくりに
貢献する個人や団体をたたえる 22 年度大賞
南信州地域づくり大賞 暮らし・環境部門
麻績竹宵の会かぐや姫 受賞



— 人のうごき —
世帯数 1,545 戸
人 口 4,677 人
男 2,281 人
女 2,396 人
(23 年 2 月末日現在)

平成二十一年四月、身の引き締まる思いで自治会長に就任。正直束の間の二年間でした。この間、地域の皆さまには大変お世話になり感謝申し上げます。この二年間の特徴的な活動を振り返ります。まず、夏祭りの復活です。基本構想で実現したい事業の代表格であった夏祭りが、関係者のご努力で実現出来たことは、地域づくりに多大な効果が期待できるだけに嬉しく今後の展開が楽しみです。また同時に、「座光寺音頭」と「座光寺の歌」が甦り、地域に大きな宝をもたらしました。この普及と継承が大事な課題であると思います。

次に、座光寺の独自ルールを定めた土地利用計画が二十一年に制定。農地や宅地が調和した環境を守る体制が整いました。既に三十四件もの申請事例が発生しています。座光寺の素晴らしい自然景観を守り地域の魅力アップに繋がるものと信じています。以上は、座光寺の地域づくりの一部ですが、それぞれに「自ら行動する」という気概が感じられ、「地域のことは地域で」という自治意識が徐々に浸透していることが何われ、誇れる地域です。座光寺には飯田工業高校跡地問題など大きな課題や、快適で安心・安全の安らぎの里づくりなど多くの課題があります。そこで、これまで培ってきた地域づくりの知恵と汗を結集して、リニア時代を見据えた魅力ある座光寺実現のために、共に歩んで行こうではありませんか。



座光寺の地域づくりを思う

自治会長 湯澤 英 範

また、特異な活動として渋谷区との交流が始まりました。今後この交流を通して、地域資源に新しい価値を創造し地域の活力に繋がっていくことを期待しています。

更に、座光寺特有の六つの特別委員会は、強制でない自発的な組織であるところが味噌で、各委員会が、地域を愛し、文化と歴史を誇る里づくりに向けて活発に展開しています。この活動が地域に活力を生む頼もしい存在です。

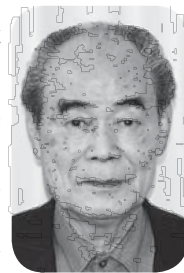
これらの活動に、「ムトス飯田賞」「地域づくり大賞」などの高い評価を受けています。

夏祭りの復活

千人を超える賑わい

自治委員会

横田 隆司



座光寺地域自治会の基本構

想・基本計画実現二期目の今年二期は、一期目に種が撒かれ芽を出し始めた諸事業を花開かせたり、眠れる種を芽吹かせる期であった。

引き継いだ事業の中で、二年目に実現でき、見事な花を咲かせたのが社会部担当の夏祭りであった。

前年度から立ち上げていた実行委員会の各部門担当の委員さん方が積極的に企画運営してくださり、第一部『人形劇まつり』は、巡回バスでの参加や出店も開店して麻績の館の会場では昼食も用意され、午後まで満員の盛況だった。

公民館委員会に感謝。

第二部『子ども楽しむ夏祭り』は、各地区のPTA校外指導部の協力による七夕飾りの行列の競演で始まり、小学校の金管バンドやダンス、麻績太鼓のアトラクションもあり、宮の前の餅つき、サイビスもおいしく、子ども達の

歓声が祭りを盛り上げた。

第三部『みんなの夏祭り』

は、竹宵の幻想的な灯に見守られながらのセレモニーの中で、今回復活した『座光寺の歌』と『座光寺音頭』の披露があり、続いて、『座光寺音頭』の踊りの大きな輪ができて懐かしがる顔があちこちで見られた。座光寺地域が一つになった時でもあった。

『座光寺音頭』万歳。

夏祭りのファイナーレを飾ったのは、打ち上げ花火だった。ナイアガラでは、興奮した男性が火の粉の中へ飛び出る場面もあり、祭りは最高潮へ。

来年度実施へ向けての企画委員会も行われ、座光寺の夏祭りには更なる展開と継続が期待される。



夏まつり「座光寺音頭」

次に特筆されるべきは、東京『渋谷区との交流』である。

総務文教部の企画で実施された「ふるさと座光寺会の総会参加と渋谷区との交流」では、三月に「原地区営農プロジェクト」が開発した新しいりんごを『チロルの会』が植樹して実ったりんごを囲んでの交流は、りんごオーナーや相互訪問、渋谷区のライトダウ

感謝・感謝の二年間

生活安全委員会

池場 高男



今期を終わるにあたり、委員の皆様には十分な協力をいただきましたことを、ありがたうお礼申し上げます。

一昨年の春祭り、御開帳で始まり、全委員が警備配置に着くなど恒例の事業となつていますが、委員の方の理解と協力がないと何もできません。これをこなし地域に参加、上部機関からの事業と数多くの事業内容ですが、これも地域の人の安全意識の高揚と、地域の結集のための事業だと思ひ委員一つになってやってきました。

ンへの竹宵の参加へと話題が発展し、地域活性化への起爆剤となりそうである。

建設部では、市場桜町線の改良実現のために市役所・建設事務所等関係機関・地元への働きかけを続け実現促進へ努力。これらの自治委員会の諸活動で『文化と歴史の薫る心豊かに暮らせる麻績の里座光寺』の実現が図られている。

また委員も新たな気持ちで、安全を確認できればとの意味も含め、委員、役員間のつながりも堅持しながら地域の発展につながるよう、共に協力してきました。

反省や評価は見方によって違うと思いますが、四年前から少数の委員となり事業内容は変わらず逆に会議等が増えている今日、委員会の回数も増えました。その分委員の顔合わせる機会がありよかった面もありました。

役員にお願いする会議や、動員なども、役員間で連絡が取り易かったこと、全委員の認識があつたとありがたかった反省です。

センターの事務局の力も大変助かりました。

座光寺は他地域とは違ってまとまっている、特色ある、力のあるところです。人口や面積は少ないのですが、何となく他の会議に出席しますと

色濃く見えてきます。又それぞれが地域力です。座光寺は誇れる地、：

安全な地域に！

事故に合わない、しないよう十分気をつけた運転と、歩行をお願いします。まず地域の人、次に通行中に会わない起こさない、地域の方々が安全意識を高めていただき、座光寺は「安全で、安心な地域」と言われるよう、一人ひとりの認識をお願いします。事故は誰も起こそうとして起きていますのでありません。ちよつとしたことで起きています。ほんのちよつとのことなのです。まず自分の命は自分で守る、マナーを心掛けて安全運転を重ねて、お願いします。



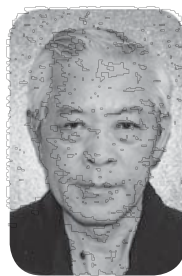
人波作戦でPR

環境衛生委員の 二年間を振り返って

環境衛生委員会

佐々木

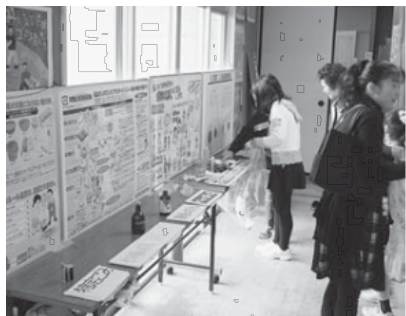
實



環境衛生委員長として、二期二年間を皆様のご協力で無事終了する事が出来ました、有り難う御座いました。

さて振り返って見ますと、不法投棄との戦いで、各支部パトロール員の日頃の努力にも係らず、一向に減りませんでした。また、沢の谷深い場所への投棄が多く、年二回の委員全員による、回収作業も苦戦の連続でした。最近以前に比べ多少減ってきたとも感じますが、継続して、回収作業と監視活動が必要です。

次に、水辺等美化活動（河川清掃）ですが、南大島川、



文化祭でゴミの分別体験

長生橋より下流が担当地区の割り付けが有りません。本来見直し再配置が必要ですが、実施出来ませんでした。次期委員の方に宿題を残してしまい申し訳ありません。対応策として、水辺の広場の方々の協力を頂き環境衛生委員全員で作業を実施致しました。

また、土曽川は上郷地域はゴミ拾いのみで河川の草刈は実施しておりません。

飯田市北部連絡協議会等で足並みを揃えるよう度々申し入れています。合意には至っておりません。継続して話し合いが必要です。宜しくお願い致します。

ゴミの分別については、文化祭でのパネル掲示、分別体験等通じてPRしてきましたが、飯田市の組成調査の結果は大きな変化はありません。継続してPR活動をお願いいたします。

リサイクルステーションの運用は、マニユアルの作成等で問題ない状況です。引き継ぎをしっかりと行い、次年度の方々をお願い致します。

河川の水質監査も三年間実施しました。大きな変改は無く、BOD4値（生物化学的要求量）は10mg/L以下の基準値は一部の場所を除き問題ありません。

二年間ご協力有り難うございました。



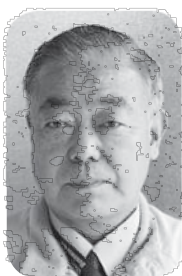
ゴミの組成調査

健康福祉の 活動と反省

健康福祉委員会

清水

明



健康福祉委員会の委員長を受けて二年間がまもなく終わろうとしています。この二年間、様々な事業を通して、健康福祉委員会の役割と、座光寺地域における「健康」と「福祉」の大切さを改めて学ばせていただきました。

二年目の今年は、年初の重点方針項目に「認知症の学習」と「結婚相談事業の展開」を二大項目として掲げてスタートいたしました。なぜ、この二つを重点項目としてあげたかと言いますと、座光寺地区もどんどん高齢化が進んでいて、いつ認知症の症状が

出ても不思議ではない状況にさしかかっているからです。また、結婚問題に関しては、飯田市でも婚活パーティーに力を入れていますが、座光寺地域はなかなか進まないという実態を感じたからです。

まず、最初の重点項目である「認知症の学習」に関しましては、委員研修という形で大桑村へ大型バス一台借りきって視察研修に行つて参りました。長野県でも認知症の学習が進んでいる地域は飯綱町と大桑村です。大桑村では、徘徊訓練も二回実施している地域です。今回の研修を通して、認知症の問題は、単に健康福祉委員や民生児童委員にとどまらず地域全体が取りくむ課題であるということを実感して帰ってきました。また支部ごとに、飯田市包括支援センターより佐藤保健師にお願いして認知症支部学習会を実施いたしました。非常にわかりやすく内容のある学習会だったと思われました。特に、認知症になりやすいのは



文化祭でにぎわうバザー

男性よりも女性であるという話もお聞きました。この認知症の学習会は、次年度におきましても持続し、また、昼間開催するとか、小単位での開催とか工夫をこらして何回も開いていきたいと思っています。

この学習を通して認知症の問題が自分の問題として、座光寺の地域の人が取りくんでいたければ「支えあう」地域が少しずつ形になっていくのではないかと思っています。

二番目の項目である「結婚相談事業」におきましては、はつきり言って挫折しました。計画はしてみましたが具体的にみると、思うように進まなかったというのが、実態です。やはりこの問題も一委員会を取りくむ課題ではなく、座光寺地域あげて取りくむことが求められます。

この一年も課題が多く残された一年でしたが、座光寺が住みやすい地域、安心して暮らせる地域になることをめざして更に前進して参ります。



大桑村研修風景

地域の文化度を高める文化祭



～ 豊かな内容で年度の活動を締めくくる ～



オープニングセレモニー小学生の演奏



子供たちの料理教室

二月五六日の両日、座光寺文化祭が「麻績の里文化ゾーン」を会場に、盛大に行われました。

座光寺小学校の金管バンド・高陵中学校吹奏楽部の力強く軽快な演奏により、文化祭は幕開けしました。

展示や芸能発表への参加団体は昨年よりも増え、その内容・方法にも工夫が見られ、日常活動の充実ぶりを伺い知ることができました。

特別展の「伊那郡カ―恒川遺跡」展では、古代郡役所全貌を思い描くことができ、吉川稔絵画展は、ゴッホを思わせる色遣いが印象的でした。

また、北川真季さんのバイオリン演奏には多くの聴衆が親しみを持って鑑賞し、その音色に魅了されました。

福祉がテーマの時局講演会とフォーラムは、重い課題でしたが、関心が高くこれからの地域づくりに生きる機会となりました。

蚕飼と市田柿生産についての二年生の学習発表は、可愛らしく大きな賞賛の拍手が送られました。

文化祭の内容は多彩であり、それぞれが充実し心に響くものでした。

天候にも恵まれ、壮年団の出店など祭りの雰囲気もあり、多くの来場者が和やかな雰囲気の中で努力を称え合い交流を深めることができました。

本年度から、新たに映像鑑賞や座光寺風景写真展などの会場として竹田人形館も加えられました。人形館を住民の一層身近な存在にしたいとの願いを込めたものでしたが、豊かな内容の割には鑑賞者が少ないことが惜しまれました。

「麻績の里文化ゾーン」施設全体の盛り上がりが今後の課題です。



初展示座光寺クラブ



児童センターの展示



保育園の展示



北川さんの演奏



足裏測定



屋台風景

二月六日の文化祭において、竹田人形座「黒姫ものがたり」を竹田人形館にて鑑賞しました。この作品は昭和四十一年にNHKが製作放映をして翌年四十二年度ミュージン国際テレビコンクールで青少年賞を受賞した作品でした。四十五年前に上演された作品です。テレビがまだ一般家庭に普及されていない昭和三十年代から竹田人形座はNHKテレビで活躍されていたとのこと。当時は今と違ってビデオテープが貴重な幸いと存じます。

竹田人形座「黒姫ものがたり」を鑑賞して

竹田人形を支える会 片桐直夫



海外でも上演された糸あやつり

文化祭を終えて

文化部長 柳沢忠文

二月五日六日には、多くの座光寺地域の皆さんに参加いただきまして、ありがとうございました。

また、「セレモニー」では、高陵中学校吹奏楽部の皆さん、座光寺小学校金管バンドの皆さんによる演奏、「ふるさとコンサート」では、北川真季さんバイオリンコンサート、



福祉バザー



親子でもちつき

特別展では、吉川稔氏油絵展、シリーズ座光寺の宝「伊那郡衛・恒川遺跡」の発掘の歩みと出土品展、「各種団体展」個人団体あわせて三十八ブースを設置。「芸能発表」お年寄りから子どもまで十三団体が発表。「竹田人形館活用事業」、水辺の広場委員会活動報告、春祭り上映会、竹田人形上映会、「時局講演会」講師・藤森克彦さんによる「無縁社会の処方箋」ひとり暮らしの増加と地域の支え合い。「地域づくりフォーラム」テ



みごとなハーモニー

マ・みんなでつくるう安心社会、「体験コーナー」こども料理教室、ゴミ分別体験、「お祭り広場」販売などたくさんの方々に支えられて二十二年度座光寺地域文化祭を無事終えることができました。

また、地域の皆さんに文化祭アンケート結果の意見をいただき、二十三年度地域文化祭の課題として企画、工夫していきたいと思えます。そして二十三年度文化祭に大勢の方が参加していただきますようお願い申し上げます。



種まき大賞受賞者



体に良い食生活を！

「無縁社会を見つめて」

地域福祉について学び語り合った文化祭

（時局講演会・地域づくりフォーラム報告）



◎「無縁社会は、対岸の火事ではすまされない

昨年「何年も死後放置されたり、行方の分からない老人」の存在が大きな社会問題になった。いわゆる無縁社会の問題である。

単身世帯は、高齢女性ばかりでなく、中高年男性にも著しく広がっていて、これからの社会の変化を見ると、対岸の火事では済まされない。安心な暮らしに向けての真剣な対処は、今日の地域づくりの最重要な課題である。

◎「無縁社会の処方箋」
～講演会から学ぶ～

講師「単身世帯社会の衝撃」の著者藤森克彦氏は一人暮らしの増加が社会にもたらす影響について次のように話された。

○二十年後には、五十・六十歳代の男性の概ね四人に一人が一人暮らしになる
○一人暮らしは、同居家族が居ない点リスクが高い
・介護が必要になったとき対応が難しい
・失業・病気により働けなくなると、貧困に陥り易い
・社会的に孤立し、孤独に陥り易い
○社会保障の強化とコミュニティのつながりの強化が必要である

◎「地域として我々はどんな備えをすべきか」
～フォーラムで語り合う～

飯田市社協の南海氏から、地域の高齢化率、独居高齢者、介護認定者などの実態を聞いた後、身近で起こっているこ

とを出し合いながら、地域で考えて行かなくてはならない課題について話し合った。

・介護は大変。自分がどう対処してよいかわからなくなってしまう。

・普段から、声掛けし合うことが本当に大切だ。

・毎月、集金の折短時間集まり顔を合わせている。面倒がる人もいるが、このようなことは見直してよい。

・遠い親戚より隣組、組合の力を強めていくことが大切。

・「ぼけたつていいじゃないか」そんなポスターを貼って、支え合いの町づくりをしている例もある。温かい支え合いを。

・独居は孤独、気軽に仲間が集まれる場所があるといい。

・毎月お年寄りが集って楽しく過ごす機会を設けている。

自らの体験に重ね、積極的な発言がなされたのは印象的である。具体的な取り組みはこれからであるが、この問題が地域全体で考えていく重要な問題として認識された意義は大きい。

麻績の里種まき大賞

「麻績の里種まき大賞」とは、地域の中で暖かな心の種を蒔いた個人や団体、地域の事を思いついて活動している個人や団体などを紹介し、麻績の里に蒔かれた地域づくりの種を大きく育てていくことを趣旨に、平成九年度より、この文化祭の場において表彰しています。今年度、受賞された皆様は以下の方々です。

▼長野県立飯田工業高等学校
飯田工業高校の職員・生徒の皆様は、公民館主催の「子供まつり」や「文化祭」に積極的に参加し、その専門性を生かして研究製作したロボットやゲーム機で子供たちを楽しませたり、「麻績の里体験学校」で、電子オルゴールや電子ホタル、紙飛行機などの

理科工作の体験教室の指導者として、懇切丁寧な指導を行い、子供たちに科学工作の楽しさを実感させ、科学への興味関心を高めてくれました。その活動と取り組みに感謝し、麻績の里種まき大賞として表彰いたします。

株式会社 丸三建設

株式会社丸三建設様は、毎週土曜日の就業前、社員一同で、阿島―飯田線、農免道路、国道一五三号線など主として本社や、事務所面に面する道路のごみ拾いを実施し、地域の環境美化に努められています。その行為は、周辺住民に環境美化への関心を喚起し、地域づくりへの取り組み姿勢を高めてくれました。その取り組みは、私達の模範であり、今回麻績の里種まき大賞として表彰いたします。

柔道クラブ活動について

牧内 勉

柔道クラブの活動は毎週火・金曜日の週二回柔道をしています。クラブ員は大人子供合わせて八名で大変少ない人数ですが、去年の十一月に行われた北部地区柔道大会では、優勝、準優勝、三位と三名が成績を修めました。今年二月の南嶋柔道大会では、佐々木悠貴君が二大会連続優



活躍した子供たち

勝しました。柔道は勝つだけでなく、礼儀を重んじるスポーツです。未来を開く子供達また大人の方も是非いっしょにやってみませんか。



なにが入っているかな？

自治組織発足に伴い、公民館は自治組織を構成する一委員会としての仕事と、社会教育機関としての仕事の両面性を持って、地域づくりと人づくりに貢献する任務を担いました。

その活動は、専門部活動の他に、生涯学習支援、人権、歴史・文化学習、そして生活・地域課題への取り組みなど幅広く、多様です。

今期は、専門部活動の充実と、子供の健全育成、地域の



公民館活動の総括と
今後への期待
公民館長 小島 稔

文化度を高める活動に重点を置いて取り組んできました。各部は、事業の展開に当たり、改めて、それが目的に沿った活動かどうか見直し、魅力ある活動づくりに心がけました。

健全育成では、保護者・学校・地域の連携を深める「子供を語る会」を設立し、子供に多様な体験をと「麻績の里体験学校」も開設しました。

また、地域への誇りと愛着を深め、文化度を高めるために、地域資源の収集・保全・活用や、地域を学び合う活動も始めました。

本年の文化祭で、地域の重要課題「福祉」をテーマにフォーラムを開催し、その一歩を踏み出しましたが、今後、公民館の命である自由・創造

ドッジボール 北信越大会4位に！

広報部 佐々木 君子

座光寺ドッジボールクラブの座光寺DBCリアルが二月二十七日に福井県で行われた北信越大会において四位という好成績を残しました。県大会では出場ぎりぎりの五位通過でしたが、厳しい練習の成果もあり県勢としては最高の成績でした。長い間目標としてきた全国大会出場にあと一歩及ばず残念ではありましたがクラブとして過去最高の成



広報誌用ファイルを全戸に

の精神を発揮し、地域の課題を直視し、発想豊かに解決のための学びを組織しなくてはなりません。

公民館は、若い委員が多く、バイタリティーに富んでいます。また、地域づくりへの意欲も高く、消防・壮年団活動を通して培ってきた人的つながりもあり、これからの地域づくり活動に大きな期待と夢を抱くことができます。

公民館は、若い委員が多く、バイタリティーに富んでいます。また、地域づくりへの意欲も高く、消防・壮年団活動を通して培ってきた人的つながりもあり、これからの地域づくり活動に大きな期待と夢を抱くことができます。



県代表として北信越大会

績であり、一生懸命頑張った練習してきた六年生にとって大きな自信となりました。

声 投稿

春祭りに懸ける想い

その一方、心にかかることは、館長の引き受け手が出来ないことです。組織は人、情熱と夢を持ったリーダーを迎えられなくては公民館活動は停滞します。

その理由の一つとして、仕

私達壮年団は、団長を筆頭に、約百人の団員がいて、上は三十九歳から下は、二十歳ぐらいまでと、年齢が幅広い団員の集まりです。各行事がありますが、壮年団活動の中心の行事が、麻績神社の春祭りです。

今年度の春祭りは、四月三日に開催する「麻績神社春祭り」に向け、昨年の十一月ころから、五役を中心に準備を開始し、竹取りから始まり、花作り、獅子舞の練習など、皆で手分けして行っており、昨年度、新しくして頂きました。獅子頭をお祭りで初めて使うので、麻績神社春祭りに向け、獅子舞の練習にも熱が入っております。私も、伝統ある麻績神社春祭りに、十数年携わらせて頂いております。年齢が十歳二十歳近くも違う団員が集まり一つのお祭りに一致団結出来る、



初顔あわせにて

この麻績神社春祭りは、座光寺地区の宝ではないかと思えます。

飯田市には、いろいろな獅子舞が有りますが、獅子曳きが居て、獅子舞も有り、越後獅子が舞い、他の地区には見られない獅子舞は飯田一ではないかと、私は思います。

四月二日宵祭り、四月三日が春祭りとなっております。みな様お誘いのうえ是非見に来て下さい。

最後になりますが、まだ壮年団へ入団をされていない方、入団をしていただき、一緒に楽しもうではありませんか。入団の方受け付けております。宜しく願いいたします。

壮年団員

「地域の歴史にふれる」シリーズ

シリーズ⑧『志の原』の湿地帯

一、志の原

現在の平安堂通りからJ A虹のホール周辺は湿地帯が広がっていたところで、明治六年の座光寺の絵図をみると、北側は「本沢」沿いから南側の最ミ塚（最後塚）まで、西側は如来寺前の旧市場通り、南側は流田の井崎宅（隅田）まではほとんど家が無く、現在の虹のホール東側にただ一

二、志の原一帯の地名

寛文六年の検地帳をみる

軒今村宅（扇田）があっただけでありました。明治六年の絵図には「血の原」と書かれています。寛文六年の検地帳によると、「志の原」と呼ばれています。血の原という呼び名は、武田勢との戦いで流血の原という言い伝えがありました。



現在の志の原

と、如来道と、ながれ川・さいの神・志の田・志の原・五反田・にし田・ふか田・溝下・大沼・六反田・田中・最ミ塚・塚田・ながれ田・隅田・ななくさ田・大宮田・ひへ田などの付く地名が多いことが判ります。古くから水田地帯の広い

ところで、古代伊那郡衙の重要な生産地帯であったわけですね。

貨物線敷設工事の折には、何本ものパイプが打ち込まれた所でもありました。柵に使われた木杭が発見されたところもありました。

三、本沢の周辺は

榎林であった

原田栄治さんの残された記録により、本沢は周囲より高いところを流れ、榎林でよくカブト虫を捕ったものだと言われています。明治六年の絵図には林はありませんが、両側が小高い様子が判ります。現在はその姿はありません。大正十四年に、本沢沿いから如来寺前までの道路が新設されました。元々低いところであったので埋め立てて道路が造られたと思います。確かな記録はありませんが、本沢両側の土が道路の埋め立てに使われたのでは無からうかと思っています。

四、湿地帯の面影がない

貨物線が附設され、企業基地が造成され、国道一五三号線座光寺バイパスの開通で様相が大きく変わりました。それでも、よく見て歩くと以前の様子を探すことが出来ます。大鳥居の南側から、しの原の湿地帯を通って欠野へ通ずる道の跡はあります。本沢

から引いた水路も残されています。その様子は最ミ塚の西側辺りに残されています。

とくにJ A虹のホールの周りには低い土地が残されています。何時かはこの低地も姿がなくなるかも知れません。（今村善興）

史跡保存ゾーンに六基の説明看板

畦地、石行、平地、最ミ塚、新井原、大塚、経塚

座光寺は有数の古墳密集地。高岡古墳群は、一キロ四方の地に四十七基が密集し、その出土遺物も注目すべきものがある。

現存する古墳は六基ほどになってしまったが、隣接する恒川遺跡と共に、貴重な史跡ゾーンとして、保存が急がれる。

この度、「歴史に学び地域をたずねる会」「高岡の森保存会」では、この地の古墳六基に説明看板を建て保存活動に乗り出した。次年度は、恒川遺跡の案内看板が検討されている。



畦地一号古墳

編集後記

三月十一日午後二時四十六分頃、「東北・関東大地震」が発生しました。

当日休日だった私は、テレビのニュースに見入っていました。

地震発生から三十分頃には大津波が発生し見る見るうちに自動車や家ごと流されていく光景を見ました。ここに住んでいる方々は無事なのか大変心配になりました。津波の凄まじい勢いに驚きました。情報が入ってくるに従って被害の状況がひどくなってきました。また、交通機関の運休により首都圏から自宅へ帰れない方も多く出たようです。

翌日深夜には、長野県北部でも地震が発生し、県内でも被害がありました。

翌日のニュースでは、次々に津波の被害や火災の状況更新には、原子力発電所の避難指示等が放送されました。

地震はいつどこで起きるか分からない状況です。この座光寺でも東海地震や伊那谷断層地震の恐れがありますが、いざと言う時に避難場所まで行けるのか、また、夜に起きたときはどうなるか心配されます。日頃から家族への連絡方法を検討する必要性を感じました。